

令和7年度 杉並区立小中一貫教育校 杉並和泉学園 学園評価(自己評価および学校関係者評価)

重点経営目標	学校関係者評価	具体的方策	【学園自己評価】	評価参考資料(問,肯定率%)			【教育調査アンケート結果】	教育調査(外部アンケート)結果										
				児童・生徒	保護者	教員		No.	児童・生徒	小	中	保護者	教員					
◎「3つのC」を体現する児童・生徒の実現	○9年間を通して進める、キャリア教育に関わる学習活動の充実。「学びに向かう力」を高める学習指導の推進。 ○1人1台専用タブレット端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実施 ○地域との協働に基づく、児童・生徒、地域にとって価値ある教育活動の創造 ○創立10周年記念行事・記念式典に向けて、児童・生徒、地域とともに10年を振り返ることで学園のよさを再確認し、新たな10年に向けた取組を児童・生徒が中心となって行う。	・学校支援本部や地域教育推進協議会等との協働により、弟子入り体験(3年)や商品開発プロジェクト(6年)、職場体験(8年)、大学生体験(9年)等を計画どおりに実施でき、地域や社会等についての理解を深めることができた。 ・創立10周年関係の行事に児童・生徒が主体的に取り組む、次の10年に向けての意識が高まった。 ・一律的かつ一斉的な「宿題」を廃止し、児童・生徒が主体的に家庭学習に取り組めるように授業改善や課題の提示方法を行った。次第に意欲的に家庭学習に取り組める児童・生徒が増えた。 ・学習の個別最適化に取り組み、自らの方法やペースで学習を進めることができる児童・生徒が増えた。	A	⑥	68.8 68.0	④	55.8 43.4	③	86.0 83.3	【教育調査等アンケート結果】 ・児童:学校及び家庭学習では、主体的な学びを意識している児童が多い。 ・他者との交流を通した学びを意識している児童・生徒が増えた ・保護者:子どもたちの成長を支えるための連携については高評価だが、学習に対する連携については低評価である。 【学校評価委員会の意見】	①	56.0 56.0	70.4 63.7	【質問①～⑥は区共通項目】子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくなるためにできていると感じている。	61.5 57.2	【質問⑦～⑩は区共通項目】授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	62.0	
				⑩	64.6 62.4	⑥	61.5 58.7	⑤	50.0 66.7		②	68.1 69.0	72.6 74.7	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことについて、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	67.6 65.0	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	50 66.7	
Diversity(多様性)を認め合う学園の実現	○異文化・異言語・異世代の交流活動等を地域と協働して推進  ○通常学級と特別支援学級との交流活動の充実を図ることによる児童・生徒の人間関係形成力の向上  ○Diversity(多様性)を尊重するカリキュラムの研究・編成	・昔遊び体験(1年)、華道体験(4年)、茶道体験(5・6年)、和太鼓(6年)、狂言教室(6年)、水引き作り体験(9年)等、地域と協働した異世代交流や明治大学の学生による多文化共生授業を行うことができ、日本文化や他国の文化についての興味や関心を広げることができた。 ・運動会や校外学習等で通常学級と特別支援学級との交流(共同)活動を行ったり、児童の実態に応じて、個別に特定の教科で交流を行ったりすることでお互いの理解を深め仲間意識を強めることができた。 ・校内研究では、「Diversity」をテーマに「ちがいを認め合い、自分らしく生きることのできる児童・生徒の育成」を研究主題に据えて研究授業を行ったことで、互いを尊重しながら交流し、学び合っていくとする姿勢が見られるようになった。	A	①	70.4 63.7	③	56.7 46.2	⑧	83.3 87.8	【教育調査等アンケート結果】 ・多様性を尊重する行事や学習を行い、児童・生徒や保護者の意識も高まってきている。	⑦	55.5 60.4	59.9 50.0	教科書を読むなどして、授業でこれら学習することの見直しをもつようになっている。	53.8 45.6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたちが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	58.0 66.7	
				④	75.2 73.0	⑬	55.4 45.8	⑬	87.5 79.6		⑧	58.1 55.3	67.5 72.7	教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようにしている。	42.0 28.8	連携する小・中学校による小中一貫教育(義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。	80.0 75.0	
Communicateの実現 一小中一貫教育のよさを生かし、豊かにかかわる児童・生徒を育てる	○「つながり」と「かわり」を大切に にした9年間継ぎ目のない小中一貫教育の推進  ○オーストラリアをはじめとする英語を母語とする国の海外交流校との英語交流の充実	・「杉並和泉学園9年カリキュラム」に基づく教育課程を編成・実施した。各教科・領域において小中乗り入れ授業を行うとともに、研究授業を別日に実施することで、互いの授業を参観することができ、系統性を再確認することができた。 ・創立10周年にあたり、運動会や合同作品展等の学校行事、小中合同委員会やクラブ等で小中交流の活動を充実させることができた。また、記念行事に向けて、児童会・生徒会を中心に準備を進め、充実した内容の発表を行うことができた。 ・姉妹校のウイロビー-GHS(中)やオーストラリアの現地校とのオンライン交流を実施し、外国語を学習すること意欲を高めることができた。	A	⑫	69.4 73.3	①	61.5 57.2	⑬	46.0 75.0	【教育調査等アンケート結果】 ・児童:学習のつながりや他者とのかわりについて高評価。 ・保護者:特色ある教育活動については高評価。 【学校評価委員会の意見】	⑬	76.0 65.3	②	67.6 65.0	授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。	75.2 65.3	学校は、通常の学級や特別支援学級、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	56.0 58.3
				⑭	77.7 85.3	⑤	59.9 53.8	⑭	84.3 83.8		⑭	73.7 77.7	81.4 85.3	授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。	74.4 68.4	ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。	26.0 33.3	
児童・生徒の安全安心の実現 一安全教育及び生活指導上の諸課題の未然防止・課題対応に力を尽くす	○いじめ・暴力行為の発生しない学園を目指した人権教育の充実  ○不登校・教室外登校の児童・生徒の居場所として「IZUMI ROOM」の運営  ○防災・学校事故・感染症・交通事故等に対する、児童・生徒への安全指導・安全管理の徹底	・いじめや(性)暴力が許されないことについて、全校による講話や学年・学級経営を行った。また、区の「いじめ防止対策推進基本方針」等の改定を受けて、学園の基本方針や組織を見直し、全教職員対象の研修を実施し意識の強化を図った。 ・不登校対応のために運営している「IZUMI ROOM」と学級担任が連携を取り、不登校傾向にある児童・生徒や気持ちを切り替えるための居場所として機能した。 ・学校安全年間計画に基づく指導に加え、杉並区内外で起きた事故等に対して、組織的に対応することができた。	A	⑮	57.6 55.8	⑧	42.0 28.8	⑮	95.8 87.8	【教育調査等アンケート結果】 ・児童:学校が楽しいと感じている児童は多い。中学部では昨年度低評価だったが、楽しいと感じている生徒が増加した。安全教育については高評価である。 ・教員:いじめ防止についての講習等を行い意識が高まったが、保護者へは、十分に浸透しておらず、児童生徒の人間関係(いじめ、不登校を含む)等に関する項目については低評価だった。 【学校評価委員会の意見】	⑮	87.0 57.5	88.5 55.7	いまの学校のみんななら、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。	26.7 44.7	学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、当事者に関する様々な情報を、保護者や個人相談、進路説明会などの機会とお話しして提供している。(特支学級・特支教室・通級)	43.8 60.0	
				⑳	78.4	⑫	43.6 33.3	⑳	85.4 87.3		⑭	74.4 68.4	⑲	79.9 49.2	85.8 58.8	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	84.3 83.8	【質問⑱以降は学園独自項目】学園は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じている。
教職員の働き方改革の実現 一組織的な取組を推進し、児童・生徒の資質・能力を高める授業改善に還元する	○学びのデジタルプラットフォームや1人1台専用タブレット端末等を有効活用した教育DXの段階的な推進  ○大規模校のメリットを生かした校務の役割分担の適正化  ○授業時数と教育課程の適正な管理、行事の精選・実施方法の見直し	・一部の学級で連絡帳を廃止し、授業支援ソフト(ロイロポート)で時間割を連絡したり、学園からのお知らせ等をデジタル配信したりしたことで、業務の削減が図れた。 ・校務DXが進み、様々な取り組みが行われているが、新校務システムの運用による変更や不具合等への適応に時間がかかることがあった。 ・校務分掌(組織・業務)の見直し、会議の精選、校務支援システム(C4th)の活用により、教材研究等の時間を生み出すことができた。 ・学習指導要領に定められた標準授業時数に対する余剰時数を減らし、水曜日の4時間授業を増やすことで、ゆとりのある教育課程を編成・実行でき、会議時間や子ども向き合う時間の確保等に役立てることができた。 ・教職員は幼保小の交流に熱心に取り組んでいるが、全教職員の共通理解や保護者への発信も積極的に進めていく必要がある。	B	⑩	92.0 90.9	⑮	52.0 50.0	⑩	52.0 50.0	【教育調査等アンケート結果】 ・保護者:デジタル化、オンライン化等の環境整備について高評価である。 ・教員:スクール・サポート・スタッフの活用による負担軽減について高評価。ワーク・ライフ・バランス等の働き方について低評価である。 ・幼保小の連携について低評価である。 【学校評価委員会の意見】	⑳	79.9 49.2	85.8 58.8	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。	84.3 83.8	特色ある教育活動【キャリア教育(例:弟子入り体験・商品開発・職場体験等)、外国語、ICT等)は子どもたちの成長に良い効果をもたらしている。		
				⑫	36.0 50.0	⑫	53.4 46.0	⑲	32.0 58.3		⑳	71.1 61.6	67.3 54.4	自分には、自分のやりたいことを応援してくれる身近な地域の大人がいる。	52.6 46.8	義務教育9年間を通した一貫性のある教育(小中一貫教育)は、子どもたちの成長や発達に良い効果をもたらしている。		
重点目標3				⑭	26.0 33.3	⑭	26.0 33.3	⑭	26.0 33.3	【質問⑳以降は学園独自項目】学園では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。	㉑	76.4 87.9	69.9 46.4	授業では、タブレット端末を活用した授業を行っている。	53.4 46.0	いじめや不登校などに対して、未然防止・早期発見・解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。		
				⑲	43.8 60.0	⑲	43.8 60.0	⑲	43.8 60.0		⑳	71.7 73.6	65.0 52.2	学校の生活が楽しい。	77.6 82.1	学園での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育れていると感じている。		
				上段:小 下段:中		上段:R7 下段:R6		青:66%以上 赤:50%以下		【質問㉑以降は学園独自項目】学園では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。	85.4 83.6	83.6	毎日の学習において「問い直す」学習を実施し、思考力・表現力を高めている。	47.9	【質問㉑以降は学園独自項目】地域運営型(CS)学校として、学校運営協議会、学校支援本部、地域教育推進協議会と協働した教育活動を進めている。	95.8 89.8		
										自分から先に挨拶をしている。	72.7 73.9	73.9	小中一貫教育、特別支援学級と通常学級との交流を積極的に進めている。	61.4 60.4	「杉並区いじめ防止対策推進基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けた取組を迅速に対応できる組織をつくっている。	95.8 87.8		
										学園での学習や行事を通して、子どもは自分の目標に粘り強く取り組む力が高まったと感じる。	77.0 59.7	59.7	Challenge—ひとむきに挑戦する—	61.2 56.6	人と人の心をつなぐために、「自分から先に挨拶のできる」児童・生徒を育てている。	91.7 65.3		
										授業中、自分の考えを自らすすんで発表する。	54.1 31.4	31.4	学園での学習や行事を通して、思考力・表現力・判断力が高まったと感じている。	61.8 58.7	Challenge—新たに創造する—	83.3 87.8		
										学園での学習や行事を通して、自分の目標に粘り強く取り組む力を高めている。	64.9 41.6	41.6	学園は、Diversity(多様性)を尊重する学習や行事を考え実施している。	60.4 54.0	Challenge—ひとむきに挑戦する—	87.5 81.6		
										毎日の授業において「問い直す」学習を実施し、思考力・表現力・判断力を高めている。	64.6 50.0	50.0	Create—新たに創造する—	83.3 81.6	毎日の授業において「問い直す」学習を実施し、思考力・表現力・判断力を高めている。			
										学園は、Diversity(多様性)を尊重する学習や行事を考え実施している。	78.4 62.4	62.4	Diversity(多様性)を尊重する学習や行事を考え実施している。	87.5 79.6	Diversity(多様性)を尊重する学習や行事を考え実施している。			
											上段:R7 下段:R6					上段:R7 下段:R6		